

【革新懇の三つの共同目標】

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

いま東アジアの「平和の準備」をどう進めるか

7月24日、全国革新懇・日本原水協・日本平和委員会・安保破棄中央実行委員会で構成する実行委員会の主催で、シンポジウム「いま東アジアの『平和の準備』をどう進めるか」が開催されました。米中対立や日中関係の悪化など緊張が高まる中で、「平和の枠組み」の実現を求めることは緊急な課題ですので、シンポジウムの内容をご紹介します。パネリストとして日本共産党の志位和夫議長、室蘭工業大学の清末愛砂教授(オンライン参加)、新潟国際情報大学の佐々木寛教授、山口大学の瀬藤(こうけつ)厚名誉教授(兼コーディネーター)が登壇し議論しました。



< シンポジウムの目的 > (瀬藤氏が提起)

◆ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ侵攻を契機とするイスラエルとヒズボラの戦闘拡大など世界は戦争のさなかにある。平和憲法に示された平和主義と民主主義の実現を通して、恒久的な平和創造こそ日本の責任であるが、安保3文書・統合作戦司令部の創設・敵基地攻撃能力の保有など「新しい戦前」の状況に突き進んでいる。中国脅威論を口実とする抑止力や、日米軍事同盟の強化がもたらすのは戦争。その過ちを正し、平和な未来を切り開くために、どのように準備を進めるのか議論しよう。

◆志位氏は、4月17日に発表した「東アジア平和提言」の三つの柱 ①ASEAN(東南アジア諸国連合)と協力して東アジア規模での平和の地域協力の枠組みを発展させる ②北東アジアの諸問題－日中関係、台湾問題、朝鮮半島問題、歴史問題などの外交的解決をはかり、東アジア平和共同体をめざす ③ガザ危機とウクライナ侵略を国連憲章と国際法にもとづいて解決する を紹介。「提言」を貫く基本的立場 ①岸田政権の大軍拡の暴走に対して、憲法9条にもとづく平和的対案を示す ②理想を掲げつつ、「現実的なアプローチ」に徹する ③排除の論理でなく、包摂の論理を貫く ④対話と外交で東アジアに平和をつくる－この一点で力を合わせよう－ と語りました。

◆清末氏は、戦争は突然始まるものではなく、帝国主義的発想、植民地支配、戦争や武力行使につながる緊張関係などを背景に、武力行使・戦争への道がつくられ、加えてそれを支える精神的な構造も巧妙、多面的につくられる。だからこそ平時から戦争・武力行使に向かう道を形成する構造を見抜き、軍事の芽を摘むことが必要。イスラエルに見るように「自衛」「防衛」の名の

下で軍事的行動が正当化されるが、「安保3文書」を閣議決定した日本も同じ道を進んでいると指摘しました。

◆佐々木氏は、日本の安全保障政策上の大転換について、①憲法と「専守防衛」の破壊－「敵基地攻撃能力」により世界的に展開 ②税金の無駄遣いと財政の軍事化－国家安全保障を肥大化させ社会保障を削っていく構造 ③戦争のリアリティの欠如－中国と戦争したらどんな経済危機が起こるか、原発が攻撃の対象に と指摘。市民レベル、研究者、国際的な運動による平時からの「平和の準備」の必要性が強調されました。

その後の討論では

◎中国との関係について、2008年の日中首脳会談での「互いに脅威とならない」との合意にふさわしい行動を双方が取るべき。意見の不一致がある問題でも「言うべきことは言い、同時に「現状を前向きに打開し紛争にしない」ことが重要。

◎核兵器禁止条約の成立の際、自らの尊厳をかけて立ち上がった被爆者の声が各国政府を揺さぶり禁止条約に実を結んだ。平和をつくるうえで市民社会、個人が「平和の主体」として声を上げることがますます重要と確認されました。

■あいおい損保職場革新懇も行動を積み上げてきました。みなさんにお願ひした「大軍拡・増税 No!」の請願署名は現在444筆となり、賛同者・職場関連の96名の方にご協力いただいています。

平和をつくる主体は私たち一人ひとりです。これからも平和を準備するために、ともに声を上げ行動しましょう。

核兵器のない平和で公正な世界へ！ ただちに行動を



8月5日～9日 広島・長崎にて原水爆禁止 2024 世界大会が開催されました。

8/5 には、フォーラム2「非核平和のアジアのためにー日本とアジアの運動との交流」のほか、討論会「核兵器廃絶にむけた日本の役割」「核問題とジェンダー」「核兵器をなくそう女性のつどい in ヒロシマ」を開催、全国高校生平和集会には20都道府県から200人が参加しました。8/6 ヒロシマデー集会には3750人参加し1250人視聴、「広島からのよびかけ」を採択しました。8/8 長崎交流フォーラム「核兵器禁止条約第3回締約国会議にむけて国際共同行動を！」では自国の政府を変える運動の報告と交流。8/9 ナガサキデー集会には1000人以上参加し300人視聴「長崎からすべての国の政府への手紙」を採択。両集会とも国連や各国政府代表、国際組織、国内外の団体やNGO、被爆者や個人など、様々な分野での訴え、運動の報告と交流、討論が行われました。岸田首相は度々「核兵器のない世界」と発言するが、核兵器禁止条約については一言も触れません。核抑止ではなく直ちに核兵器禁止条約に署名・批准するべきです。

東京都知事選挙を終えて これからも声を上げていきましょう (8月5日 HP投稿)

都知事選挙でご支援をいただいたみなさん、ありがとうございました。共闘候補の蓮舫さんは大健闘されましたが、残念ながら当選には至りませんでした。世話人会では、今回の都知事選についての「立憲政党や革新懇も含めた市民団体の分析や声明」を参考に討議を行いました。

世話人会の討議内容を伝えます

- (1) 蓮舫さんは、前回の共闘候補の宇都宮健児氏の得票からプラス43万9111票と大きく上回ることが出来た。
- (2) 蓮舫さん登場の街頭宣伝ではかつてない人数の人たちが集まり、「トップダウンではなくボトムアップで暮らし応援の政策を実現しよう」との訴えに共感する都民が増え「都政を変える希望」を見せてくれた。
- (3) 革新懇を始め市民と野党の共闘で変えようと市民団体がひとつになり、駅頭宣伝など工夫して行われた。
- (4) 杉並区長選から始まった「ひとり街宣」には、SNSの投稿をみて自分もやってみようという3000人以上が挑戦、都内の主要な駅頭700か所以上で行われ、政治を変える希望となった。
- (5) 小池都政は批判され、全ての市区町村・島で支持を減らしマイナス74万3356票となった。蓮舫さんと石丸候補の得票合計は小池知事を上回っている。
- (6) 2期8年の小池都政の総括や争点について報道が不十分
- (7) 石丸伸二候補は「政治屋の一掃」「政党のしがらみがない」をアピール、SNSを駆使し既成政党や政治そのものに不信をもつ無党派層を中心に支持を集めたが、街頭宣伝では政策は語らず、ネットを見て名前を広めてくれに終始していた。「政党と無縁」と言っていたが、選対本部長は自民党、選対事務局長は東京維新の会関係者、応援演説に統一協会関係者がいた。

- (8) ネット世代・無党派層も含め、多くの都民に響く動画サイトやSNSを駆使したネット選挙の更なる向上を期待したい。
- (9) 都議会議員補選では自民党は2勝6敗、萩生田議員の八王子市では自民党候補が大差で惨敗し、裏金問題に対する都民の怒りが示された。

これからも声を上げ小池都政・自民党政治を変えましょう

今後、都議会の第3回定例会議は、9月18日から10月4日の予定です。都議会での小池都知事の答弁姿勢は自民・公明・都民ファには100%答弁、立憲・共産などへの答弁拒否率は76%です。知事に不都合な議員の質問は排除され、議会から追い出す(3月26日東京MXニュース動画あり)など非民主的な運営を許すことなく、選挙で訴えた小池都政の問題点についてこれからも声をあげていきましょう。

来年の夏には都議会議員選挙、その前に衆議院選挙の可能性もあり、市民と野党の共闘を発展させ自民党政治を終わらせるために力を合わせましょう。

季節の俳句

開ボタン押せず乗り越え夏列車

核弾頭行き交う星や敗戦忌

最上川七色花火刺しゅう糸

立ち止まりガイド指さすそこに秋

俺は哭く年に一度の敗戦忌

逃げる子を追いかけて行く花火かな

八月の白キテントや爆心地